

## 神奈川県におけるタネハゼおよびクロコハゼの初記録

北原 佳郎

### Yoshiro Kitahara : New Record of Two Species of Gobiid Fishes, *Callogobius tanegasimae* (Snyder) and *Drombus* sp. A from Kanagawa Prefecture, Japan

タネハゼ *Callogobius tanegasimae* (Snyder) およびクロコハゼ *Drombus* sp. A は、ともに河口域付近に生息するハゼ亜目ハゼ科の種である(明仁ほか, 2000; 岩田, 2001; 鈴木, 2001; 瀬能ほか, 2004)。両種とも分布域が南偏するいわゆる南方系の魚類であり、タネハゼは、静岡県, 三重県, 和歌山県, 高知県, 宮崎県, 大分県, 鹿児島県から与那国島, 五島列島, 国外では台湾, フィリピン, クロコハゼは、静岡県, 和歌山県, 高知県, 宮崎県, 鹿児島県, 五島列島, 種子島, 屋久島, 琉球列島, 国外では台湾に分布する(明仁ほか, 2000; 岩田, 2001; 鈴木, 2001; 瀬能ほか, 2004; 石田ほか, 2005)。

今回、両種の分布北限である静岡県よりも東の神奈川県のうち、県内でも南に位置し、比較的黒潮の影響を受けやすいと思われる三浦半島の逗子市田越川河口域において魚類調査を行い、タネハゼおよびクロコハゼを採集したため、ここに報告する。

なお、本稿で使用した種の標準和名、学名および配列は、主に中坊編(2000)に従い、ハゼ亜目の種の学名および和名については瀬能ほか(2004)に従った。

#### 調査方法および調査地点

調査は、2007年6月2日に、神奈川県逗子市桜山の田越川富士見橋付近において干潮時の約1時間、タモ網(口径40cm, 目合2mm)を用いて行った。調査地点は、田越川河口から約250m上流の感潮域に位置する。河岸はコンクリートで護岸され、底質はカキ殻が多く見られる砂泥である。河床はとても柔らかく、少しの移動でも容易に膝丈まで埋没してしまうため、調査範囲は、安全性が確保されると判断された岸から約1m(水深約1m)までとした。

得られた標本は10%ホルマリン液で固定した後、70%エタノールに移し、室内において頭部感覚管の観察、雌雄の区別、各部の計測および計数を行った。頭部感覚孔の観察は、明仁ほか(2000)に従い、サイアニンブルーによる染色を施して行った。雌雄の区別は、生殖突起の形状により判断した。計測および計数は、中坊編(2000)に従い、計測にはノギスを用いて0.1mmまで計測した。なお、本報告で用いた標本は、すべて宮内庁生物学御研究所魚類資料(BLIH)として登録および保管した。

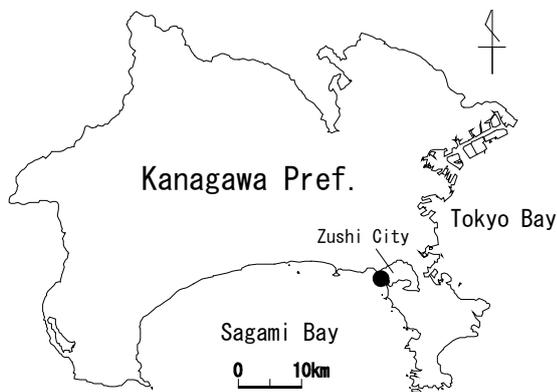


図1. 調査地点位置図 ●: 調査地点



図2. 調査地点の全景

## タネハゼ

### *Callogobius tanegasimae* (Snyder) (図 3, 4)

#### 材料

BLIH20070202, 1 個体, 全長 89.0mm, 標準体長 65.6mm, 雄; BLIH20070203, 1 個体, 全長 61.1mm, 標準体長 44.0mm, 雌; BLIH20070204, 1 個体, 全長 35.3mm, 標準体長 25.8mm, 性別不明; BLIH20070205, 37 個体 (雄 18 個体, 雌 19 個体), 雄全長 59.4 ~ 89.0mm, 標準体長 46.2 ~ 62.5mm, 雌全長 55.0 ~ 69.8mm, 標準体長 39.0 ~ 51.4mm, 2007 年 6 月 2 日, 神奈川県逗子市桜山, 田越川富士見橋付近, 北原佳郎・北原晃子採集。

#### 記載

背鰭 6 棘 - 1 棘 14 (13 ~ 14) 軟条, 臀鰭 1 棘 11 (10 ~ 12) 軟条, 胸鰭 16 (15 ~ 17) 軟条, 腹鰭 1 棘 5 軟条。体色は茶褐色を呈し, 体は細長く, 尾鰭は尖形。頭部に皮褶が発達し, 下顎から前鰓蓋下縁にかけて 12 短横列孔器が見られた。腹鰭は吸盤状で癒合膜は湾入しない。胸鰭は長く, 雄の数個体では先端が臀鰭基底部に達していた。

#### 生息状況

岸際のカキ殻の多く集まる水深約 10 ~ 100cm の

砂泥底において採集された。なお, 採集時の水温は 22.5°C, 塩分濃度は 28‰であった。

#### 備考

調査個体は, 明仁親王・目黒 (1977), 明仁親王 (1985b), 明仁ほか (2000), 鈴木 (2001), 瀬能ほか (2004) のタネハゼの特徴と概ね一致した。また, 本種の体サイズは, 全長 10 ~ 12cm (鈴木, 2001; 瀬能ほか, 2004), 標準体長 8cm (明仁ほか, 2000) とされていることから, 採集された 40 個体のうち, 39 個体は成魚もしくはそれに近いサイズ, 1 個体は幼魚と判断された。

## クロコハゼ

### *Drombus* sp. A (図 5)

#### 材料

BLIH20070199, 1 個体, 全長 50.9mm, 標準体長 40.2mm, 雄; BLIH20070200, 1 個体, 全長 43.9mm, 標準体長 35.9mm, 雌; BLIH20070201, 2 個体 (雄 1 個体, 雌 1 個体), 雄全長 46.5 mm, 標準体長 35.8mm, 雌全長 41.9mm, 標準体長 33.3mm, 2007 年 6 月 2 日, 神奈川県逗子市桜山, 田越川富士見橋付近, 北原佳郎・北原晃子採集。



図 3. タネハゼ *Callogobius tanegasimae*  
上: BLIH20070202 成魚, 雄, 標準体長 65.6mm  
下: BLIH20070203 成魚, 雌, 標準体長 44.0mm  
酒井孝明撮影



図 4. タネハゼ *Callogobius tanegasimae*  
BLIH20070203 幼魚, 標準体長 25.8mm  
酒井孝明撮影

## 記載

背鰭6棘-1棘10軟条, 臀鰭1棘9軟条, 胸鰭17(16~17)軟条, 腹鰭1棘5軟条, 背鰭前鱗数7(0~7)。体色は黒褐色を呈し, 頭部の断面は円形に近く, 前鼻孔下方に膨出部が見られた。頬部および鰓蓋には鱗が存在せず, 頬部の孔器配列は頬部中央とその下方に縦列孔器が計2本存在し, その縦列孔器間眼下付近に2本の横列孔器が見られた。頭部感覚孔は, 前眼肩甲管B', C, D, E, F, G, H', 後眼肩甲管K, L', 前鰓蓋管M, N, O'が見られた。雄の第1背鰭第3棘が伸長し, 3棘, 4棘間の鰭膜には黒色斑が見られた。また, 第2背鰭と尾鰭の上縁部に白色帯が見られた。生時には, 雌雄ともに胸鰭基底上部に三角形の白斑が見られ, 体側には柿色斑が散在していた。第2背鰭, 臀鰭, 腹鰭は黒褐色を帯びており, 第2背鰭基底部の黒色縦帯は雄では幅広く, 雌ではほとんど見られなかった(図5)。

## 生息状況

採集時の状況は, タネハゼと同様であった。なお, 採集時にはボラ *Mugil cephalus cephalus* Linnaeus, マゴチ *Platycephalus* sp.2, ウロハゼ *Glossogobius olivaceus* (Temminck et Schlegel), ヒナハゼ *Redigobius bikolanus* (Herre), スジハゼ A *Acentrogobius* sp. A, アカオビシマハゼ *Tridentiger trignocephalus* (Gill), チチブ *Tridentiger obscurus* (Temminck et Schlegel, 1845) が採集された。

## 備考

調査個体は, 明仁親王(1985a), 明仁ほか(2000), 岩田(2001) および瀬能ほか(2004)のクロコハゼの特徴と概ね一致した。また, 本種の体サイズは, 全長5cm(明仁ほか, 2000; 岩田, 2001; 瀬能ほか, 2004), 標準体長4cm(明仁ほか, 2000)とされていることから, 採集個体は, 成魚もしくはそれに近いサイズであると判断された。

## 考察

タネハゼおよびクロコハゼの分布北限は静岡県であり(瀬能ほか, 2004), 今回の田越川での確認は, 両種の神奈川県初記録ならびに北限記録となる。神奈川県下の河川では, イセゴイ *Megalops cyprinoids* (Broussonet) (萩原・斉藤, 1999), テングヨウジ *Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus* (Bleeker) (中里・藤田, 1986; 勝呂ほか, 2006), オオグチユゴイ *Kuhlia rupesteis* (Lacépède) (蓑宮ほか, 2002; 工藤・瀬能, 2002), ユゴイ *K. marginata* (Cuvier) (林・長峯, 1981), チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* Bleeker (萩原・斉藤, 1999), マツゲハゼ *Oxyurichthys ophthalmonema* (Breeker) (明仁親王, 1972), クロホシマンジュウダイ *Scatphagus argus* (Linnaeus) (木村ほか, 1997) など, 南方系の魚類が確認されているが, そのほとんどが卵もしくは仔稚魚期に黒潮により運ばれるのみで, 再生産が行われない無効分散であると考えられている。

今回, 一回の調査データしかなく, 季節的な消長までは検討できないものの, 採集されたタネハゼおよびクロコハゼの体サイズから考えると, 両者ともに当歳魚ではなく, 少なくとも2007年以前に田越川へ加入し, 採集地付近において複数年間生息していたものと考えられる。タネハゼは, 亜熱帯性のハゼであることから, 琉球よりも北では冬季の水温低下に耐えて越冬することはできないと考えられてきたが(岩田・細谷, 2005), 近年では, 琉球列島より北の高知県四万十川(岡村, 2002), 和歌山県加茂川(平嶋, 2000)では常時生息していると考えられている。本調査においてタネハゼは, 採集個体数が多く, 成魚だけではなく幼魚も得られていることから, 田越川を含む神奈川県下の河川に今後定着する, 若しくは既に定着している可能性が示唆された。

クロコハゼは, 本州では和歌山県で確認されており(瀬能・北村, 1982; 玉田, 1993; 平嶋, 2000; 平嶋・中谷,



図5. クロコハゼ *Drombus* sp. A

上: BLIH20070199 成魚, 雄, 標準体長 40.2mm

下: BLIH20070200 成魚, 雌, 標準体長 35.9mm

酒井孝明撮影

2001), 和歌山県より北では板井ほか(2004)により静岡県から報告されるまでは記録がなかった。本調査においてクロコハゼは, 採集個体数が少なく, 現時点では田越川に定着しているか否かは判断しがたい。しかし, 近隣の静岡県伊豆半島の河川では, クロコハゼが既に定着している可能性が示唆されていることから(北原・板井, 2006), 神奈川県内の河川への加入が比較的起こりやすい状況下にあるものと思われる。

南方系魚類の分布拡大や定着状況の情報は, 気候変動や海況などの環境変化を把握する際の指標となり得るため, 両種の生息状況の詳細について, 田越川および周辺河川における調査データの蓄積が期待される。

### 謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 池田祐二氏(宮内庁生物御研究所)には標本の登録および管理をお願いした。北原晃子氏(静岡市)には魚類採集を協力していただいた。柳生将之氏(信州大学大学院総合工学系研究科)には, 原稿を見ていただき, 意見をいただいた。酒井孝明氏(株式会社 環境アセスメントセンター)には, 写真撮影について協力いただいた。平嶋健太郎氏(和歌山県立自然博物館)と石田 淳氏(株式会社 道の駅やよい番匠おさかな館)には, 本報告に必要な資料収集に協力いただいた。また, 匿名の校閲者には, 原稿改訂に際し適切な助言をいただいた。この場を借り篤く御礼申し上げる。

### 引用文献

明仁親王, 1972. 神奈川県で採集されたマツゲハゼ *Oxyurichthys ophthalmonea* とその学名の検討. 魚類学雑誌 19(2):103-110.

明仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久, 2000. ハゼ亜目. 中坊徹次編, 日本産 魚類検索 全種の同定 第二版, pp.1606-1310. 東海大学出版会, 東京.

明仁親王, 1985a. クロコハゼ. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫, 日本産魚類大図鑑, pp.240. 東海大学出版会, 東京.

明仁親王, 1985b. タネハゼ. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫, 日本産魚類大図鑑, pp.254. 東海大学出版会, 東京.

明仁親王・目黒勝介, 1977. 日本で採集されたオキナワハゼ属 5 種及びその類縁関係. 魚類学雑誌, 24(2):113-127.

萩原清司・斉藤和久, 1999. 森戸川感潮域で採集された魚類. 神奈川自然誌資料, (20): 69-74.

林 公義・長峯嘉之, 1981. 三浦半島淡水魚類調査追加記録と一考察. 神奈川自然誌資料, (2): 23-28.

平嶋健太郎, 2000. 和歌山県下津町加茂川の魚類 I ~河川域の魚類相変化~. 南紀生物, 42(2): 93-97.

平嶋健太郎・中谷義信, 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相(予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.

石田 淳・松尾敏生・立川淳也・瀬口三樹弘・海老原麻美・高濱秀樹, 2005. 大分県白杵川感潮域のイドミミズハゼ等希少魚類採集記録. 南紀生物, 47(2): 121-123.

板井隆彦・北原佳郎・北野 忠, 2004. クロコハゼ. 静岡県自然環境調査委員会編, まもりたい静岡県の野生生物一県版レッドデータブック<動物編>, 159pp. 羽衣出版, 静岡.

岩田昭久, 2001. クロコハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編, 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.561, 568. 山と溪谷社, 東京.

岩田明久・細谷誠一, 2005. ハゼ類の多様性からみた四万十川河口域. 海洋と生物, (156): 39-46.

木村喜芳・萩原清司・中根基行, 1997. 神奈川県産淡水魚 5 種の分布に関する新知見. 神奈川自然誌資料, (18): 79-82.

北原佳郎・板井隆彦, 2006. 静岡県におけるクロコハゼ *Drombus sp.* の分布および定着状況. 2006 年度日本魚類学会年会講演要旨: 66.

工藤孝浩・瀬能 宏, 2002. 横浜市侍従川におけるオオクチュゴイの出現. 神奈川自然誌資料, (23): 3-4.

蓑宮 敦・勝呂尚之・瀬能 宏, 2002. 相模川および酒匂川で確認された魚類 - I -. 神奈川自然誌資料, (23): 5-7.

中坊徹次編, 2000. 日本産 魚類検索 全種の同定 第二版, 1748pp. 東海大学出版会, 東京.

中里 靖・藤田矢郎, 1986. 伊豆, 相模, 房総におけるテングヨウジの分布と産卵, 卵発生および仔魚前期. 水産増殖, 33(4): 230-239.

岡村 收, 2002. タネハゼ. 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会編, 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物, pp.196-197. 高知県文化環境部環境保全課, 高知.

瀬能 宏・北村利幸, 1982. 加茂川感潮域の魚類 I. 南紀生物, 24(1): 36-42.

瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維畿, 2004. 決定版 日本のハゼ. 534pp. 平凡社, 東京.

勝呂尚之・蓑宮 敦・中川 研, 2006. 神奈川県の希少淡水魚生息状況Ⅲ. 神奈川県水産技術センター研究報告, (1): 93-108.

鈴木寿之, 2001. タネハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編, 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.563, 575. 山と溪谷社, 東京.

玉田一晃, 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35(2): 125-132.

(株式会社 環境アセスメントセンター)